



2024年3月8日

各位

会社名 株式会社RS Technologies  
代表者名 代表取締役社長 方 永義  
コード番号 3445 東証プライム市場  
問合せ先 経営企画室長 田渕 勝也  
電話 03-5709-7685

## 2023年12月期 決算説明会 質疑応答集

この質疑応答集は、2024年2月27日に開催したアナリスト・機関投資家向け決算説明会にて、ご出席の皆様からいただいた主なご質問をまとめたものです。投資家の皆様により当社をご理解いただけるよう、一部内容の加筆・修正を行っております。

Q1：再生ウェーハ事業は3Qから4Qにかけて、売上高が増加している一方、利益は減少しています。その要因を教えてください。

A1：3Qは利益率の高い販売ウェーハのスポット受注があり、利益率は一時的に44%まで伸びました。4Qは、そのスポット受注が入っていないことが利益率マイナスの主な要因の一つでございます。4Qの利益率は3Qと比較すると、44%から39.3%と4.7ポイント低下しておりますが、1Q 38.6%、2Q36%と比較すると、問題なく推移していると考えております。

Q2：販売ウェーハとはなんですか？

A2：メーカー様の規格外商品のウェーハを当社が買い取り、それを加工し、販売しております。

Q3：再生ウェーハ事業の売上高の考え方を教えてください。

A3：単価×出荷枚数＝再生加工賃（売上高）が基本的な考え方でございます。これと、販売ウェーハの売上高が再生ウェーハ事業の売上高を構成しております。

Q4：再生ウェーハ事業内の販売ウェーハの売上構成比率を教えてください。

A4：販売ウェーハはスポット受注もございますが、通常は再生ウェーハ事業売上高の約10%程度を占めております。

Q5 再生ウェーハのサイズ構成比率を教えてください。

A5：日本の三本木工場では、90%程度が12インチ、それ以外が8、6、5インチでございます。台湾の台南工場では、12インチのみを承っております。

Q 6：再生ウェーハの市場成長について教えてください。

A 6：プライムウェーハ総出荷量の約20%はテストウェーハであり、その内の80%は再生し繰り返し使用されます。そのためプライムウェーハの出荷量増加（＝半導体市場規模拡大）に比例して、再生ウェーハの需要が高まり、市場も成長すると予測しております。

Q 7：プライムウェーハ事業の4Qの収益が減少している要因はなんでしょうか？

A 7：プライムウェーハ事業では、中国でのプライムウェーハの製造・販売に加え、シリコン部材（エッチング装置の消耗部品となるシリコンや石英の部材）の製造・販売も行っております。2023年は、エッチング装置メーカー市況の環境悪化を背景にシリコン部材の販売数が減少したことが要因の一つでございます。また2022年のシリコン部材特需の影響で、2023年はお客様の在庫調整があったことも影響いたしました。プライムウェーハの単価は、競合との兼ね合いで数%低下いたしました。出荷枚数はほぼ横ばいで推移いたしました。

Q 8：シリコン部材のお客様（販売先）はどこですか？

A 8：当社の販売先は、シリコンや石英部材の加工業者様です。その加工業者様から大手エッチング装置メーカー様へ、加工した消耗部品を販売する商流でございます。中国で製造しておりますが、販売先は中国国外（米国、韓国、日本等）の加工業者様です。

Q 9：プライムウェーハ事業でのシリコン部材の売上高構成比率を教えてください。

A 9：2022年のシリコン部材の売上高構成比は約50%でしたが、2023年4Qでは約30%となりました。

Q 10：プライムウェーハ事業の2024年見通しを教えてください。

A 10：当社のプライムウェーハ事業の主力である8インチは主にパワー半導体に使用されます。中国のEV市況は2024年後半から回復基調となると見ておりますので、当社事業も下期に向けて徐々に回復すると考えております。シリコン部材に関しましても、2024年後半にかけて回復基調となると予測しております。

Q 11：EVの市況が戻らなかった場合、プライムウェーハ事業の8インチはどうなりますか？

A 11：8インチは、EV以外にも洗濯機等の民生品にも使用されますので、需要はございます。大型のモーターを使用した工作機器等の産業機器にも使用されております。

Q12：半導体関連装置・部材等事業の4Qは、売上高増加に対し、利益が減少しています。その背景を教えてください。

2023年下期は、シャープ製レーザーダイオードを中心としたモジュールの新製品及び新規顧客の取り込みにより拡販に成功いたしました。しかしながら、モジュールの利益率は他の商品と比べ高いことが、4Qの結果に繋がりました。加えて、エッチング装置メーカー市況の環境悪化により当セグメント内の子会社DG Technologiesの製造・販売数も減少いたしました。

Q13：PLの補助金収入について教えてください。

A13：2023年は、17.35億円が補助金収入として計上されております。その内の3.5億円は宮城県と、宮城県大崎市からDG Technologiesへの補助金であり、それ以外は中国から有研半導体硅材料股份公司（GRITEK）への補助金でございます。2024年はDG Technologiesへの補助金はありません。中国からの補助金は政府より発表されるまで詳細は分かり兼ねますが、当社としては2023年と同等程度となる予想をしております。

Q14：株主還元に関する考えを教えてください。

A14：2023年の配当性向は10%といたしましたが、今後も増配を続けられるよう事業活動に邁進していく所存です。また当社では設備やM&A等への投資を適切に行うことで、事業成長と通して企業価値を向上させ、株主の皆様に還元してまいりたいと考えております。今後も株主の皆様のご期待に沿えるよう取り組んでまいります。

<ご参考資料>

2023年12月期 決算説明資料

<https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS02916/df4eca4f/4aaa/4675/bb80/568e33930d20/140120240213535037.pdf>

2023年12月期 決算説明会動画（質疑応答なし）

[https://www.irmovie.jp/nir2/?conts=rs-tec\\_202402\\_bw2e](https://www.irmovie.jp/nir2/?conts=rs-tec_202402_bw2e)

2023年12月期 決算説明会動画書き起こし

<https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS02916/6e2847d5/b528/415f/ac09/b8cc2ad0e674/140120240305548734.pdf>

以上